

# 幸せの歌



JA宗谷南 2019NEN  
12GATUGOU  
~SEASON73~

# 役員視察研修

11月12日に札幌市教育文化会館大ホールにて開催されました、JA北海道大会実践フォーラムに当JA役員13名が参加しました。

大会は、JA・系統連合会役員、JA青年部組織・JA女性部組織の部員ら1000名の参加により開催されました。

大会議案の内容は、第29回JA北海道大会の決議事項である、協同の力で「農業所得の増大」と「多様な担い手の確保・育成」を実現、「次代につなげる協同の価値と実績」についての、各JAの実践状況や、事例などが報告され、各JAの地域的・作目的な特性を反映した取り組みが見られ、将来ビジョンである北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」の実現に向け着実に自己改革が進展している事について報告がなされ、大会は盛会のうちに終了しました。

翌日、その足で一行は最初の視察先である宮城県に向かいました。

2011年東日本大震災による被災地の一つ、石巻市を視察しました。市の中心地は居住可能な地域のため復興が進んでいる様子で、津波等の爪痕は見受けられませんが、高い建物の所々に当時の津波到達地点が記されており、想像を超える高さまで水位が上昇したことが伺えます。一方、旧北上川をはさんだ両岸河口付近、南浜町周辺は被災当時、地震・津波に加え、大規模火災が重なり、瓦礫の山と化していた場所で、非常に多くの方が亡くなっており、殆どの建物は消失、現在は危険区域に指定さ



津波到達地点看板



3・11みらいサポートの語り部



JA北海道大会実践フォーラムの様子



3・11みらいサポート視察の様子

れ居住禁止となり、復興が見込めない地域も存在しております。

市の中心地に近い3・11みらいサポートを訪問、映像を見ながら語り部さんの当時の体験談を伺いました。

今までに比較的大きな地震や、津波の経験は有ったものの、東日本大震災の規模は千年に一度と言われる位で想定をはるかに超える規模であり、地震後、あたりの被害状況の様子を確認している間に、津波が来ていることに気づき、母親を連れて逃げたが、二人とも瞬く間に水にのまれ、死を覚悟するも、運よく助け上げられた。この時一度助かった母親は、時期的な寒さもあり二日目の夜、低体温症で亡くなってしまった。思えば当時、防災意識は全く持ち合わせておらず、備えもしていなかった。

最後に、「皆さんの住まわれている町も海のすぐ近くと聞いております。地元に戻られましたらぜひ本日のお話と、現在の石巻の復興状況をお伝え頂き、防災等に役立てて頂ければと思います。こうして縁があり視察に来て頂けることが、大きな励みになります。」と語られました。

この後、前記した特に被害の大きかった南浜地区を視察、本日の宿へと向かいました。

翌日、一行は福島にある復興牧場ミネロファームを視察訪問しました。福島県の被災状況、原発事故の影響も受けており、避難を余儀なくされた酪農家さんたちの大多数が、再開の目途が立たない中、被災酪農家の雇用と県内酪農の復興に向けた支援を目的に、被災の翌年「NPO法人福島農業復興ネットワーク」が設立されました。同法人は、比較的震災の影響が少なかった福島市の牧場を借り受け、施設を改修し復興牧場ミネロファームを建設しました。

当初45頭の乳牛の導入でスタートし、現在の総頭数は151頭（内搾乳牛108頭）日量出荷乳量2662kg、育成は殆んど預託、施設は牛舎一棟フリーバーン＋フリーストール、パーラーは10頭Wパラレル他、堆肥処理施設等を備えておりました。当初、5名の被災酪農家が集まった共同型経営で勤務シフトを組むなど、生活の質の向上にも取り組んでおられました。現在は独立や、他の法人を立ち上げるなどで、抜ける方もいて当初から残っている方は1名、雇用や実習生等の受入などにより、研修施設的な役割が強くなっている様です。

解除の見通しが立たない、立ち入り禁止区域土壌汚染の問題や海外からの風評被害も依然として残っており、福島農業の復興はまだまだ途上に見えますが、再起を目指す人々により着実に進展しているようです。

一行は当日の内に、最後の訪問地東京へと移動、農林水産省を訪れ、生乳需給の状況、酪農経営の概況・課題、今後取り組む対策について

説明を受け、意見交換などを行いました。

平成30年の国内生乳需要量は、1250万トンあったが、そのうち国内の生乳生産で賄われた分が728万トン、不足分は輸入枠の他、追加輸入22万トンで賄われており、北海道の生産量が増加しているものの、都府県の生産量の減少がひびき、供給不足が続く中、都府県の需要を補う形で北海道から都府県への生乳や産地パックの移が増えている。乳製品需要はチーズ・生クリーム等で拡大している中、国内生乳生産量の減少により、輸入量が増加しており、今後、輸入で補っている需要を国産に置き換えていく必要があります。又、TPP11や日EU・EPAの発効により今後、輸入チーズとの厳しい競争を強いられることから、国産チーズの高品質化や製造コストの削減に取り組む必要もある。

農林水産省では、生乳の需給安定を図るための支援策として、「国内の乳製品需要に応じた補給金の総交付対象数量を設定」、「月別用途別の販売予定数量の審査・実績の確認、検証」、「加工原料乳価格の下落に応じた補てん制度」、「ALIC農畜産業振興機構による乳製品の調整保管等の緊急対策」を法律、予算に基づき、制度として措置している。又、ICTやロボット技術の活用等による生産性の向上、省力化のための機械装置の導入等の支援策、消費者の理解醸成に関する取り組み等の報告を受けました。最後に、補助事業も含めこれら支援策と、TPP11や日EU・EPA等の対策については、積極的に予算請求していく旨の説明がありました。



農林水産省での意見交換の様子



復興牧場 ミネロファーム





# 経営・生活・創意工夫展

10月2日、酪農振興センターにてJA宗谷南女性部主催の「経営・生活・創意工夫展」が開催されました。部員18名が参加し、来賓には、宗谷農業改良普及センターより市村係長、よつ葉乳業(株)より橋本さん、農協より向井地組合長、西澤営農部長が出席しました。

始めに、戸澤部長より開催挨拶が行われ、来賓の、向井地組合長より、働き方改革や酪農の環境対策について挨拶頂きました。

アロマワックスバーや陶芸など女性部員の丹精こもった作品を鑑賞や試食をして楽しみ、また、昼食には女性部員で作ったお弁当をふる



# 女性部・青年部講習

12月10日、酪農振興センターにて、JA宗谷南女性部・青年部が合同で「乳汁からわかるデータの活用について」と題し、北海道酪農検定検査協会の田中義春参与と道北事業所の帯川芳彦所長を講師に招き講習会が開かれました。

今回の講習では、最新の研究によりわかってきた、乳汁中からの様々なデータから、妊娠確認が出来る「PAGs検査」や「乳中ケトン体情報」を活用し、分娩後の健康状態やサイレージの発酵品質確認なども行える事が紹介されました。関連情報である、「牛群検定のWEBシステムDL」がより一層使いやすく進化したことも紹介され、従来のシステムをアップデートし昨年度の乳房炎などをわかりやすくグラフや表にした「周産期対策レポート」と、一昨年のTMRなどのグラフや表で活用できる「支援者版」のを合わせ今年新しく追加された「診療情報」により牛の体調のグラフが見やすくなったり、全道の農場の平均と自分の農場状況を比較できるようになり、これにより身近にあるスマートフォンでも正確な値が確認できるようになり、酪農家の負担が減ることにつながりました。



北海道酪農検定検査協会 田中義春参与





# よつ葉ミルクフェア in TOKYO

10月18日～28日までの10日間、東京都自由が丘に今年3月6日にオープンした、「MILKLAND HOKKAIDO → TOKYO 自由が丘店」にて開催された『2019年度よつ葉ミルクフェア in Tokyo～北海道からのメッセージ～』に当農協から合同会社ファーム和楽の山岸恵美子さんと高橋敦美さん、営農部酪農畜産課松本係が参加しました。

この運動は、牛乳・乳製品の消費拡大を通じて、酪農生産者とお客様がお互いの立場を理解・尊重し絆形成を図り、酪農現場の取組を消費者へ伝えると共に、参加者の良質乳生産に対する意識を醸成する事が目的です。

参加者は十勝主管、根釧、オホーツク北見、宗谷工場管内酪農女性及び農協職員30名、よつ葉乳業(株)より5名、合計35名が搾乳体験とポケットティッシュ・シールの配布、パンケーキの試食、牛乳・飲むヨーグルトの試飲で、宗谷工場管内のJA東宗谷の酪農女性の方たちと2人1班で行いました。この日は周りの商店街で子供たち向けのハロウィンのイベントをやっており、仮装した子供たちがたくさんいて賑やかでした。

搾乳体験ではそんな子供たちが並んで順番を待ち、酪農女性にやり方を教わりながらみんな上手に搾乳していました。試飲では来場客や通行人に、「北海道の牛乳です！」等と声をかけて飲んでもらったところ、「おいしい～」「濃い！！」「いつも飲んでると全然違う！」等声が上がリ、直ぐに買い求めるお客さんや、何杯もおかわりする子供達もいました。試食ではカフェに来店したお客さんが注文した後に「パンケーキの試食いかがですか？」と声掛けして希望があれば、よつ葉のバターや10月1日に新発売した「よつ葉濃厚ヨーグルト」のトッピング希望の注文を取りパンケーキを焼いてトッピングをして渡していました。これもまたおいしいと評判で、ヨーグルトを買っていくお客さんもいました。

今回、この「MILKLAND HOKKAIDO → TOKYO



道行く多くの方々に試飲・試食を進めました。



模型を使った搾乳体験（高橋敦美さん）



パンケーキは焼き立てを試食してもらいました。

（山岸恵美子さん・松本係）

自由が丘店」で初めて消費拡大運動が行われ、試飲数約1,600人、パンケーキ試食88枚と、いつもと違う地域の方にも、北海道の乳製品の安心・安全さ、よつ葉の新製品を始めとする商品を伝えることができたと思います。また、消費者の生の声を聞く機会が中々ありませんでしたので良い経験となりました。参加された山岸さん、高橋さん、消費拡大運動と長距離の移動、大変お疲れ様でした。

## よつ葉乳業「消費者・ユーザー交流研修」

10月25日～27日の間「消費者・ユーザー交流研修」が東京都内にて行われました。今回の研修会にはよつ葉乳業(株)宗谷工場の若手酪農生産者として当農協から、中島蓉麻さんと営農部酪農畜産科君ヶ袋係長が参加しました。

初日の研修は、都内におけるスーパーの牛乳・乳製品売り場を視察し、消費地における販売品目や価格等を知り、国産乳製品と海外乳製品を比較しました。

次に、辻調グループ校、エコール辻東京で専門学生との意見交換会を行い、その中で今回参加の中島蓉麻さんから自牧場の取組や自分のこだわり等が発表さ



中島牧場の特徴を発表してくれた、中島蓉麻さん

れ酪農業に対する理解を深め合いました。

二日目は、よつ葉ミルクフェアに参加し、消費者に牛乳の生産現場や乳製品に対しての理解を深めてもらい、交流を行いました。

三日目は、海外視察研修・視察先検討会が行われ、2020年度に実施予定の海外視察や研修テーマ等について各班グループに分かれ、検討を行いました。

どこの国を視察するかは今後、よつ葉乳業の関係者で検討して最終決定していくとの事です。





# 令和元年度全国優良畜産

## 経営管理技術発表会

11月25日に、全国優良畜産経営管理技術発表会が東京都内にて開かれ、当農協組合員のヨシダファーム有限会社代表取締役、吉田明彦さんが発表されました。この発表会には全国から応募された優良事例を選考委員会にて審査され、最優秀賞・優秀賞候補として、8事例が本発表会に選出されました。

吉田さんは「計画的な規模拡大、従業員雇用でゆとりある高収益経営」と題し発表されました。すべての発表が終了し審査の結果、最優秀賞である農林水産大臣賞を獲得しました。

審査講評では、大規模経営でありながら優れた飼養管理により長命連産を実現、後継牛も外部導入する事無く全て自家生産であり、高産次の経産牛が多いながらも平均分娩間隔が短い、コントラの有効利用、就業規則を作り従業員が働きやすい環境を作ること、雇用確保の実現等について高い評価を受けていました。

今回の受賞は宗谷管内では2例目、枝幸町では初の快挙であり、改めてヨシダファーム(有)の経営に対する熱意を感じられるものでした。



# 農協懇談会

12月5日～6日に、JA宗谷南農協懇談会が乙忠部コミセン・歌登支所で行われました。

組合長の挨拶では、令和2年度の決算見込みのことについてや今年度の規模拡大している人たちや離農・休農についてなどの話がお話しされました。

懇談会の議題につきましては、令和2年度の営農計画書作成にあたっての留意点などの説明、令和元年度上半期の決算状況についてと財務・事業実績の年度別推移について説明が行われました。

また、参加された組合員の皆様からは、人手不足問題などの意見や要望が集まり、有意義な懇談会となりました。

今後も意見や要望を参考にし、より一層努めていこうともいいます。

懇談会終了後には皆さんで食事会をし、懇談会とは違う雰囲気の中、組合員と役員が今後の酪農事業などについてお話しされ、大変盛り上がりました。

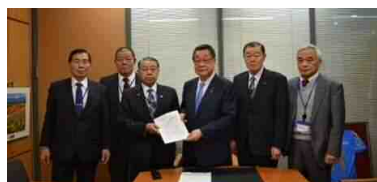




JAグループ北海道は、日米貿易協定の発効を目前に控えた状況下で、総合的なTPP等関連政策大綱などの見直し、経営所得安定対策の単価改定、加工原料乳補給金単価の設定など、農業の担い手が意欲と希望を持って一層の農業経営の体質強化に向かえるよう、政府・与党等に対し働きかけを行って参りました。

結果として、農業関係補正予算、当初予算とも前年を上回る額が措置されることに加え、農業生産基盤の強化や家族経営への支援などが盛り込まれるなど、北海道の農家・組合員の営農継続に一定の道筋をつけられました。

今後も北海道の農家・組合員が国際競争や災害に負けない力強い農業・農村の構築と所得向上の実現を図り、持続可能な北海道農業の確立に向けて取り組んでまいります。



※吉川前農林水産大臣に要請書を手渡すJAグループ北海道要請団

## JA北海道信連



JA北海道大会の将来ビジョンの実現に向けて、JAグループ北海道農業経営フォーラムを札幌市内で11月に開催しました。今回のフォーラムでは、「農業経営に地域の魅力をいかす」をテーマに、宮城県で主に水稻と養豚を営む有限会社伊豆沼農産の伊藤社長より農村自体を産業化する取り組みについて、商品ジャーナリスト北村森氏より道内農畜産物の魅力を伝える秘策について講演がありました。



## JA共済連北海道



JA共済連北海道は、11月8日より「JA共済有村架純&浜辺美波の限定LINEスタンプ」のダウンロードを開始しています。JA共済限定LINEスタンプの提供は、JA共済へ興味・関心をもっていただき、資料請求者をより一層拡大していくことを目的としております。有村架純&浜辺美波の限定LINEスタンプのダウンロードについては、QRコードを読み込み、アンケートに回答いただきますとダウンロードすることができます。



## ホクレン



ホクレンは、コーポレートメッセージ「つくる人を幸せに、食べる人を笑顔に」を広く発信し、北海道農業とホクレンの事業をわかりやすく伝えるためにアニメーション動画を制作し、12月19日からYouTube上で公開を開始しました。動画の主題歌には榎原敬之さん、主人公役の声優には「なつぞら」の番長役の板橋駿谷さんを起用し、WEB媒体を活用して道内生産者・JAおよび全国の消費者・取引先へ広く発信していきます。



## JA北海道厚生連



令和元年11月30日（土）遠軽厚生病院にて遠軽町・湧別町・佐呂間町の中学生を対象に医療技術体験セミナーを開催しました。

当日は、46名の参加がありました。薬剤師や検査技師などの仕事を知り、進路選びの参考にしてもらおう狙いで、毎年実施しています。

今後も継続して実施していきたいと思っております



JAグループ北海道の連合会・中央会の活動内容を紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。





# 授精所だより



## 繁殖カレンダーの使い方について

2020年の繁殖カレンダーの配布が始まっています。そこで、今回は今までも使っている方も使っていない方も再確認できるように繁殖カレンダーの見方、使い方について説明します。



まず、「月」と「日」の並びについて。これは21日(発情周期の目安)ずつに並んでいるので、発情周期がつかみやすい。

今回の発情日の「段」の下の日が次の発情予定日となる。



ここに発情が来た牛・授精した牛(または移植した牛)の番号を書く！

月 MON	火 TUE	水 WED
12/23	12/24	12/25
発情日 ・AI/ETを行った日		
AI牛の分娩予定日	ET牛の分娩予定日	
	次期発情予定日	
9/28	9/21	9/29
	9/22	9/30
1/13 成人の日	1/14	1/15

次に記入方法について  
写真の通り、発情があった場合、授精・ETをした場合にその牛の番号を記入。  
枠内、左下の日にちが《AI牛の分娩予定日》、右下の日にちが《ET牛の分娩予定日》になる。

名号/個体No.	交配種雄牛	分娩予定 分娩月日	性別

この他に、カレンダーの左側には分娩牛の記入欄もあり、1年間の受胎・出生状況やオス・メスの頭数も一目で確認することができます。

繁殖カレンダー以外の繁殖ボードなど併用してさらに繁殖管理を簡便にしよう！



編集委員  
浦高森滝河野村  
谷本川口合澤田  
正等忠直直隼太  
憲 幸也樹希

氏名：大平 佑太 (おおひら ゆうた)  
配属部署：営農部 営農課  
出身地：枝幸町  
この度、12月より営農部営農課に配属になりました。入ったばかりでまだ右も左もわからないですが一つ一つしっかりと勉強していこうと思うので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 新規採用 職員紹介

